

「読書感想画の指導」

東大阪市立長栄中学校 教諭 加藤和子

はじめに

「芸術家」や「アーティスト」と呼ばれる人たちは、それぞれに『テーマ』を自ら探究し、驚異的な描写力や情熱的な表現力で、作品を創造し、独自の世界を生み出していきます。

授業やクラブ活動で、生徒に「読書感想画」を紹介する際、私は、『「読書感想画」って、テーマの部分で、「読書体験から得た感動」ということにしぼっているということ以外は、美術界の巨匠たちと同じことをやっているんだよ。「読書の力」を借りると、絵を描く上で一番むずかしいテーマが見えてくる。巨匠たちの中には、生涯をかけてテーマを探究することだってあるんだ。

だから、「読書感想画」に取り組もうと思えたこと自体、とても素晴らしいことなんだ。』と、話すようにしています。

制作がうまくいくかどうかは、本を読みこんで、どのような感動にたどり着けるか？感動から、どのような『テーマ』を見つけられるか？が鍵になります。こういうことは、国語科教師であれば、造作ないことかもしれませんが、ちょっとした工夫で、美術科でも指導が可能です。逆に美術科以外の教師であっても『テーマ』設定さえ的確であれば、挿絵風でない読書感想画の指導ができると考えます。

1. 制作の準備と流れ

- 6月
 - ・毎年夏休み前の読書感想文の課題図書の記事の発表があると、購入図書の目録作時に、図書館教育担当の先生に、10月ごろに発表される読書感想画の指定図書部門の課題図書用の予算を残していただけるようお願いする。
 - ・昨年度の応募ポスターを、美術室や学校の随所に掲示しておき、募集要項、条件などが把握できるようにしておく。
 - ・募集要項のプリントを制作しておき、自由図書部門制作希望者に、個別に配布する。
 - ・自由図書部門制作者に、読書後に書く感想文の書き方を指導する。
- 7月
 - ・自由図書部門制作は感想文より「テーマ」を引き出す。
- 8月
 - ・制作に際し参考にする資料についての指導する。→制作条件の確認
 - ・自由図書の制作を開始する。
- 9月
 - ・指定図書発表と同時に、購入を手配する。
 - ・今年度の応募ポスターやカレンダー（制作締切）、募集要項の掲示、今年度の募集要項・指定図書を紹介するプリントを配布する。
- 10月
 - ・指定図書が届き次第、配架手続きを進めるとともに、指導者も課題図書を全種類読む。そのため、一種類につき最低でも2冊購入。
 - ・「朝の読書」の時間や図書貸し出しで、指定図書を読ませる時間を確保。指定図書部門制作者に、読書後に書く感想文の書き方を指導する。
- 11月
 - ・指定図書部門制作は感想文より「テーマ」を引き出す。
 - ・応募票の制作に際し参考にした資料についての指導をする。
 - ・指定図書の制作を開始する。
- 12月
 - ・作画感想用紙の書き方の指導をする。・東大阪市審査会
- 1月
 - ・大阪府審査会、中央コンクール審査会

2. 指導について

①生徒に絵を描かせる準備

- ・用紙 → エルバーテ紙 4つ切りサイズ
ケナフの繊維でできた紙。マーブリングやウオッシングをしても丈夫で、画風によって裏表を使い分けるよう指導。
ふつうの画用紙と色も質感も違うので、生徒には、「コンクール用のスペシャル紙」と説明して、通常の制作と異なることを強調し、モチベーションを上げる。
- ・描画材 → 基本は授業で使用しているポスターカラーであるが、授業の中で色材の指導を行い、3年間で不透明水彩・透明水彩・パステル・色鉛筆・アクリル絵の具・油絵の具・マーブリング絵の具など、すべての表現が可能になるよう使い方を指導をする。
- ・資料 → 図鑑、写真集など。

②十分に本を読ませ、深まりのある読書活動ができるような環境をつくる。（生徒が本を選択する際、指導者がある程度内容を把握していることが望ましい。）

③読書後に書く感想文は、「読書感想文」のように書かないことを指導する。
まず、「あらすじのみ」を書かせ、それに対する「感想のみ」を別々に書かせる。
この別々がとても大切で、完全に分離して、記述させる。

④挿絵と感想画の違いを理解させる。

- ・「あらすじのみ」の文を絵に置き換えると挿絵になることを説明する。
- ・「感想のみ」の文を絵に置き換えると感想画になることを説明する。
→ わかりにくい時は、過去の作品の例で具体的に説明するとともに、夢と幻想の世界を描いた超現実『シュールレアリズム』の絵画や構想画などについてもふれる。

⑤「感想のみ」の文から、それをまとめてギュッと凝縮するとどんな熟語や単語になるかを、短い言葉で考えさせる。

⑥短い言葉イコール感想画の『テーマ』とし、『テーマ』を表現するには、何を描きこもうか？イメージとなるキーワードを書き出し、それぞれのキーワードを資料をもとに、簡単にスケッチしていく。

⑦『テーマ』を表現する画面をスケッチを組み合わせてつくる。下絵の段階でよく検討して、アイデアスケッチを完成させる。

条件

- ・画面の位置は縦横自由。
- ・画面の中に、本を読んで感動した『自分』を何かの形で必ず入れる。
- ・なるべく近景・中景・遠景を描き込んで、画面に奥行をもたせる。
- ・表現の幅を広げるためには、本の中に出てくるもの以外のものでも描き込んで良い。→この部分をどうするか？が、
どのような世界感を創り上げるか？につながる。

資料 ・参考にした資料名がはっきりわかるように、(Webサイトの場合はURL)控えておくこと。

- ⑧アイデアスケッチが本の挿絵や表紙の絵などからの影響がないか確認する。
- ⑨表現の方法により着色の手順が変わることもあるので、よく検討して練らせ、工夫させます。モダンテクニックやアクリル絵の具を使用する時は、注意が必要。逆に、制作途中であっても付け加えができたり、画用紙の継ぎ足しで画面の変化・進化も出せる。
- ⑩作品の裏に貼る応募票の題名には、『テーマ』から発想した言葉をかたちにすることを指導する。また、作画感想文は、「本を読んだ前と後では、自分がどのように変わったか?」「この読書体験で得たものをどのように表現しようとしたか?」などにポイントをおいた文を入れることを指導する。

3. 連携について

現在、東大阪市の中でも『読書感想画』の制作に参加される学校が徐々に増えてはいますが、『読書感想文』に比べるとまだまだ少なく感じます。

指導においては、図書館担当、国語科担当、美術科担当の教師が互いに協力し合って、応募を生徒に勧められる体制がとれるかどうかポイントの1つと思いますが、それ以上に、日々の読書環境の充実が、『読書感想画』の指導に影響を与えようと考えます。

深まりのある読書があって初めて、それが感性豊かで魅力的な表現につながっていきます。

私が、『読書感想画』に取り組み始めたころから、全国的に『朝の読書』の活動が広まったと記憶しています。そういえば、転勤したどの学校でも「生徒も教職員もひたすら読んでいたなあ」と思いおこされ、それが私の絵画指導に「力」を与えてくれていたのでは?と、感じます。

本校では、小学校と連携して「朝の読書」を9年間の学びのスタンダード一つとして位置づけています。チャイムと同時に静寂が訪れ、生徒も教職員もとても穏やかな時間を過ごし、その雰囲気を保ちつつ1時間目に臨むという読書活動が定着しています。

特に、秋、10月ごろ指定図書が発表されてからは、審査会までの実際の制作時間(着色時間)は、個人差があるとはいえ、とても短く、制作に十分な時間がとれるかどうか課題です。アイデア、「テーマ」と、逆算していくと、12月初めのテスト期間と重なったりして、本を読破するまでが「時間との戦い」です。読みこなさないと絵は描けないが、本読みに時間をかけすぎると、アイデアはもちろん、絵が完成しなかったり、描きこみの少ない薄っぺらな仕上がりになるので、その頃合いが難しいと思います。

なので、「朝の読書」によって、それも全教職員の協力のもとに心穏やかに本を読み深める貴重な時間を確保し、習慣として生徒たちが楽しんで本が読めることは、とてもありがたいことです。私にとって、「朝の読書」は、連携による協力の最たるものです。

4. 美術科としての指導について

連携をはかる際、美術科の立場として、押さえておきたい点をいくつか挙げます。特に、変わったことではなく、「なあんだ。」と、思われるかもしれませんが、参考になれば幸いです。

①行事ごとに美術科に依頼される授業以外の作品を、中学生としてふさわしいクオリティに維持させる。

- ・独創性、芸術性にこだわり、安易にキャラクターを使用しないように指導する。
- ・教科の評価に関係がなくても、デザインに手抜きは禁物。全力で臨むよう指導する。
- ・クラスの団結＝全員提出。
(例) 校外学習や修学旅行などのしおりの表紙デザイン、運動会応援旗

②色材（絵具）の種類を多く体験させる。

- ・不透明水彩 → 小学校と連携して、筆洗・パレット・ぞうきんなどの使い方を統一。
- ・透明水彩 → 淡彩画で、素描と透明水彩の重色効果を体験。
- ・ポスターカラー → 混色カードなどを使い、自分の作りたい色を割合で再現できるように指導。
- ・墨 → 国語科の書写で絵手紙と落款、美術科で水墨画を指導。
- ・アクリル絵の具 → 運動会応援旗、ウクレレのボディペイントによる異素材着色などで、アクリル絵の具の特徴を理解させる。
- ・パステルや色鉛筆 → ぼかし、重色、絵具との併用効果を学ぶ。
- ・コラージュ（はり絵）による色彩構成 → 抽象表現
- ・モダンテクニック → マーブリング、スパッタリング、ドリッピング、など偶然の造形を体験。
- ・いろいろな筆の使い方 → トールペイントの技法
エアブラシとマスキングの仕方

③資料集めの方法

- ・「WATCH 2」秀学社をよく使用している。
- ・学校の図書室の蔵書より探す。
- ・府立図書館、市立図書館の利用の仕方を教える。
- ・インターネットで、検索する。
- ・雑誌の広告の写真などを切り抜いてストックしておく。
- ・イメージに近いモデルになりそうな物を集める。
- ・模型を自分で作る。

④トレーシングペーパーを使った下絵の作成

- ・スケッチなどを拡大・縮小コピーをして、希望のサイズにしてから、トレーシングペーパーに写す。
- ・画用紙上で、写したトレーシングペーパーを切り貼りする。（のりで貼るのではなく、マスキングテープなどで仮止めする。）自分のイメージにあわせて組み合わせ、配置する。
- ・左右を反転したい時は、写したトレーシングペーパーを裏返して配置する。
- ・トレーシングペーパーを裏返し、鉛筆の芯を塗り付け自家製カーボン紙として使用する。うっすら残る鉛筆の線は、絵具で塗った後、はみだし部分は消しゴムで消す。

4. おわりに

今回、『読書感想画』の指導について自分の実践を振り返る機会を得て、一番困ったのは、参考作品が、写真に撮っておいた数枚以外ほとんど残っていないことです。何とか、転勤の時にまとめてダンボール箱に入れたままになっていた「大阪府応募作品読書感想文集」の中に第14回読書感想画コンクール入賞作品集として、感想画の作品と当時の毎日新聞が掲載した記事を見つけ、実物大に伸ばした写真を複写しました。私が指導し、初めて中央コンクールで奨励賞に入賞した2人の作品です。自分の描いた作品が冊子になって「記念になる物がタダで作ってもらえる」と、始めたのが『読書感想画』参加のきっかけでした。

驚いたのは、その表紙に平成8年度とあったこと。何と私は、20年以上前から、読書感想画に取り組んでいたことになるのです。その間、中央コンクール優良賞1名、奨励賞20名（自由図書2名や指定図書2名の年、双子で自由図書と指定図書、同じ子が3年連続もあるのではのべ人数です。）

最初の2人から、今に至るまで、継続できたのは、私のまわりの先生方がいろいろな場面で協力をしてくださったからです。

中央コンクールで優良賞以上になると、本の原作者の方にお会いして、お話を聞ける機会もあり、その体験はその子にとって一生の宝物になります。世界が広がり、ますます本が好きになることでしょう。

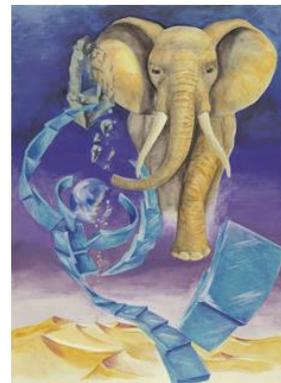
読書感想文は、自分の言葉で書くことが大切ですが、読書感想画は、読書で深まった自分の気持ちを大切にして自分の新しい世界を創り出していくことです。それを生み出していく過程は、決して楽ではありませんが、自分で創りあげていく楽しさがあります。一人でも「来年もまた描きたい」と目を輝かせる子が現れる指導を目標に、今年も10月が楽しみです。



「中学生日記：金、金、金」より



「モモ」より



「地球環境のしくみ」より



「和菓子のアン」より



「ひとりではじめてのアフリカボランティア」より